

特集 自ら学ぶ子どもたちを育てるために

学習意欲を喚起させる 協同学習

稲岡章代

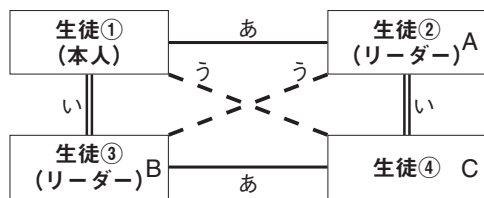
(兵庫県姫路市立豊富中学校)

英語学習の目標として「コミュニケーション能力の育成」が掲げられている。コミュニケーションはお互いを大切に思うことで成立する。日々の授業では、生徒どうしがより親しくなり、学級全体がより学習意欲を向上させることができるコミュニケーション活動を重ねていきたいものである。個人とともに集団を育てることによって、より多くの生徒の「学ぶ意識」「学びたいという意欲」を高めさせることができる。そこで、本稿ではinput—intake—outputという自然な流れを持ち、形態としてペアやグループ活動を踏まえ、さらにクラス全体へと展開する指導実践例を中学校1年生の教材を使って紹介する。

1. 協同学習の体制作り

一人の生徒はそれぞれにパートナーA、パートナーB、パートナーCを持っている。

パートナーA (となりの生徒) — 基本ペア
パートナーB (前後の生徒)
パートナーC (斜めの生徒)



上図の生徒①にとってパートナーAは生徒②、パートナーBは生徒③、パートナーCは生徒④となる。この席座は、生徒と担任の先生とともに決める。「ペア・あ」、「ペア・い」は主にリーダーがリードしながら教え合う関係、「ペア・う」はだいたい対等の表現力を持った生徒どうしになっている。「ペ

ア・う」はほぼ同等の実力を持った相手であるため、互いに「勝負心」を発揮したり、「隠れたリーダー性」を見せるチャンスとなる。ペア活動と並行して取り組ませるグループ活動では、生徒①②③④がグループメンバーとなって活動する。その場合、1人の生徒にとって他の3人がサポーターとなり、協力的な勢を取りながら力を出し合う。

ペアあ・い・うで会話やチャットをさせる場合、タイトルは同じでも相手の理解度や展開方法によってあいづちや返答に違いがあり、それぞれに面白さが出る。このようにペアあ・い・うの3段階システムを持つことにより、クラス内のサポート関係を広げることができ、互いに学習意欲や能力を高め合うことができる。このようにして、ペアからグループ、さらにクラス全体が「誰とでも心を開いて語り合える仲間」へと育つことを目指す。本来のコミュニケーションの目的である「互いに分かり合う」「情報を知らせる」「親しくなる」ということを「教室」というコミュニティの中で実践していく。

2. 協同学習を利用したスピーチ指導

中1の1学期末、生徒はbe動詞に加え、have, play, like, eat, know, wantなどの一般動詞の現在形を学んだ。そこで9月に1学期の復習として、自作のポスターを使ったスピーチショー「Speech 1」(自己紹介)に取り組みさせた。ポスターは夏休みを利用して作成させた。以下に示すように模造紙1/2の真ん中に自分の顔を描き、その周りに自己表現に必要な写真を雑誌などから切り抜いて貼らせた。ポスターを効果的に利用することでスピーチを暗記し発表するという緊張感を和らげさせることができた。



Hello, everyone!

My name is Kana. I'm from Himeji. This is Himeji Castle. It is beautiful. I like it.

I'm in the tennis club. I play tennis every day. I'm a good player.

I have a dog. The dog's name is Sharan. It is brown. It is cute. I don't have a cat. I don't like cats very much. I like curry. It is delicious.

I like baseball. It's fun. I'm a Tigers fan. I like Mr Kanemoto. He is cool. I don't like *natto*. It is not delicious to me, but I sometimes eat it.

I want a new bike. My bike is old. I like music, so I listen to music every day. I like B'z very much. They are cool. I have some CDs. I want a new CD.

Thank you.

3. 指導手順

①個人指導

支援の必要な生徒についてはポスター作りから援助し、ポスターを見ながらオーラルで練習を重ねた。

②ペア活動

ペア活動シートを利用して、まずパートナー A、

ペア活動シート

Let's practice in pairs and groups!
Speech 'I' のポスターを使って、自己最高記録にチャレンジ!

文の数	友だちからのアドバイス (内容・表情・声量・その他)
1	
2	
3	

本番に向けての工夫

B, C と、さらに ABC 以外の生徒と組ませて練習を重ねさせた。聞き手は話し手のシートの各項目に記入し、相互評価とアドバイスをさせ、スピーチの量と質を高めさせた。話し手としてだけでなく、聞き手としても「よいスピーチ」とはどういうものであるかを追求し、発見する機会とした。

③グループ活動

グループになって順にスピーチを行い、ペア活動と同じく相互評価とアドバイスをさせた。その際、各々のグループを前後の黒板や運び込んだ白板の前に机ごと移動させ、一人ずつ順にポスターを貼らせ、本番同様に発表の練習をさせた。特に聞く人を見ながら話すことを意識させた。スピーチは練習の度に内容豊かなものとなっていった。

④クラス全体でスピーチショー

本番のスピーチショーでは全員が明瞭な声で大いに楽しそうに発表し、平均スピーチ文は 30 文であった。生徒にとって「みんなの前で自分について語る」というダイナミックなチャレンジであったが、それだけに何としても全員に達成感を持たせたいという思いで指導に取り組んだ。スピーチショーでは次の評価シートを使い、自己評価と相互評価を行った。

スピーチショー評価シート

Speech Show (Speech 'I')

1-() No.() Name _____

You are a judge! Please listen to your classmates and evaluate their speeches.

Today's Target				
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
明瞭な声 □表現力 □英語のすらすら度				
3 項目中、3 項目が○= A 2 項目が○= B 1 項目以下が○= C で総合評価をします				
Name	声の明瞭さ	表現力	すらすら度	判定
1				A B C
2				
3				

(Your Comments on the Speech Show)

なお、スピーチは最終的に各自の Creative Writing ノートにポスターの写真とともにまとめられ、中 1 時代の一番の思い出のページとなって残された。

「自ら学ぶ生徒の育成」は、コミュニケーションの発信者としての、また受信者としての興味関心を引き出すことが鍵となる。クラス全員で取り組む協同学習を有意義に活用したいものである。